

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘 (1F ひまわりユニット)		
所在地	小樽市住吉町5番22号		
自己評価作成日	令和5年1月22日	評価結果市町村受理日	令和5年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0172000655-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりの丘は、小樽総鎮守の住吉神社の側にあり、近所には小樽運河やオルゴール堂など小樽を代表する観光名所があり、大変賑やかな地域にあります。また、市立病院や協会病院といった総合病院が徒歩圏内にある為、安心して生活が出来る環境になっています。一人ひとりの意思や尊厳を大切に、家庭的で楽しく、安らぎのある生活が送れるよう、利用者様と職員が共に支え合っています。利用者様、そのご家族の方がいつも安心して生活が送れるよう、職員一同サービスの向上に努めています。また、津波や土砂災害の想定エリアではなく、安全な立地になっており、地震や火災等の災害発生時の避難所が徒歩数分の場所にあります。2021年3月頃から、数名の外国人特定技能実習生の受け入れを行い、地域の介護人材不足解消のため取り組んでおります。20歳～70歳の幅広い職員が働いておりとても活気あふれる事業所になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅や商業施設、総合病院、観光名所などに近いエリアにある開設20年目を迎える事業所で、地域密着型サービスの本質を追求し、利用者一人ひとりの当たり前の暮らしを支える運営に取り組んでいる。様々な個別外出や豊富な地域交流等は自粛であるため、四季折々の景色や風情を堪能できるスポットへドライブ外出を行っている。利用者の今を大事にする視点が見てとれ、元気が出る日常を職員が細かな対策を講じ支援している。BPSDはなぜ起こるのかなど本人の背景にある気持ちを理解した介護を職員に考えさせる研修を始め、リスクマネジメント委員会を分掌化し虐待防止・身体拘束適正化等を職員主体で取り組む環境を作るなど、働く意欲と学びを深化させる職員参加型の運営である。記録やデータの蓄積など先端技術を取り入れ、現在はキョウメーションケアの研究協力を行っている。職員カンファレンスを丁寧に実施しケアサービス計画書も改定版を用い精度を高めている。外国人特定技能実習生の介護が他の職員に効果的な印象を与える場面もある。食事提供では日曜朝食や行事食以外は業者委託の献立とし、利用者からメニュー豊富で柔らかく美味しいと好評を得ている。運営の見直しを行い現実の新しい動きに挑戦する姿の根底には、利用者と家族へのサービスの質の向上と働く職員の就業環境をより良く保とうとする管理者の思いが窺える。利用者が楽しく安らげる生活を職員のチームワーク力で支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに施設理念を掲げ、毎日朝の申し送り時に唱和をし確認しています。また、月1回の職員会議時にケアの適正化について意見交換し実践につなげています。	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念を標榜し、事業所内要所へ掲示している。職員が守るべき「職員5原則」を定め、理念と共に毎月の職員会議の場で実践状況を確認し意識化、定着に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防等の観点から、地域の方が事業所へ来る機会は減りましたが日常的に挨拶をしたり、困りごとを聴くなど会話をつくるよう心掛けています。	高齢者福祉相談の受け入れはもとより、周辺の除雪に関し対策を話し合うなど、地域住民と良好な関係を築いている。地元市場からは利用者が食しやすい形態の行事食への協力も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行なわれる行事に参加したり、ボランティアの方に事業所に来てもらい交流を行うところですが、新型コロナの感染及び拡大等の影響もあり、ほとんど交流できていない状況です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来であれば年6回(2カ月に1回)運営推進会議を実施しなければなりません。新型コロナの影響もあり殆んど開催出来ていません。その代替として、書面開催の形をとっています。これによりご家族や行政職員の方、地域の方の意見や助言を参考にサービスの質の向上に努めています。	書面会議で開催し、会議録に別途事故及びヒヤリハット事項を添付し家族と構成員へ送付している。利用状況報告では行事報告の他、介護度・年齢の平均値や利用終了者の退所先等も明示し概要を発信している。関係者からは接する機会に意見や助言を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り合い、事業所の実情を都度報告、相談すると共に、担当者から助言があればそれを参考にしサービスの内容に反映出来るよう取り組んでいます。	市の担当者とは実地指導や集団指導、特定技能実習生受け入れや認知症ケア補助AIシステムの導入等で、指導や意見を仰ぐなどして適正な運営やサービスの質の維持や向上に向け協働関係を築いている。保健所とも連絡調整を密にし保健体制の整備に努めた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を中心に、身体拘束に関する研修会を年2回定期的に開催しています。日常会話の中でも、身体拘束に該当するような事柄が無いよう職員間で再確認したり共通の認識を持つようにしています。(身体拘束と虐待の研修は同時開催が多いです)	毎月リスクマネジメント委員会を開催する仕組みがあり、身体拘束適正化を検証している。高齢者虐待防止についても委員会内で分掌化し、職員が自ら取り組むことで意識を高めている。年2回これらに係る内部研修を実施している。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を中心に、虐待に関する研修会を年2回定期的に開催しています。日常会話の中でも、虐待に該当するような事柄が無いよう職員間で再確認したり共通の認識を持つようにしています。(虐待と身体拘束の研修は同時開催が多いです)		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、必要な時には職員研修で学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族に対し、契約書や重要事項説明書の内容に沿って説明し同意を得ています。その他、同意が必要な事柄に関しては書面にて説明をし同意を得ています。不明な点等は理解や納得が得られるような説明の仕方を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは生活の中で都度、意見をお聞きしております。ご家族に対しては面会時や電話連絡で意見を伺っております。意見のあった内容については早急に対応出来る体制を取り、対応しています。	利用者から日用品や菓子類の買い物の希望があった場合は10月までは一緒に出向くなどしていたが現在は感染対策により職員が代行し応じている。家族からの受診同行や一時帰宅の要望には利用者・家族の最善のものとなるよう検討し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談の機会を設け意見の聞き取り等行っています。また、月一回の職員会議でも意見の聞き取り等行っています。職員が意見の言い易い環境作りも心掛けています。	職員の働く意欲向上や課題克服へのモチベーションや力が高まるよう、職員一人ひとりに案件や課題に対しての方策を事前に考えてもらい、職員会議で決議しており、職員の自主性を重んじた環境を作り上げている。職員面談は定期及び随時の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	概ね半年に一度個別に面談を行っています。また、日々の会話の中で体調やメンタル面の変化、労働環境についての把握を行い、不安なく就労できるよう努めています。主に、希望休や有給休暇の取得に配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症予防の観点から、外部研修への参加はほとんど行えていませんが、月1回の内部研修で学びの機会をつくっています。また、個々に学びたい職員に対しては都度勉強会等の機会をつくっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は、市内GH協会の親睦会等に参加し親睦を深めていましたが、現在は行なっていない状況です。また、姉妹法人と合同の行事や研修等を通して交流の機会を作っていく取り組みの再開も検討中です。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始当初においては、緊張等があるので関わりを多く持ち、表情や言動から不安や困り事がないかどうかを早期に気が付けるように心掛け、良好な関係が築いていけるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に、管理者や計画作成担当者が面談等を通して生活に関する要望を聞き、それに沿った支援を行っております。また、生活担当制を用いており、担当者からもご家族に対して要望の聞き取り等を行い、早期に信頼関係が築いていけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等を聞き、早急に改善が必要なところから対応するよう努めております。また、日々の観察の中で見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意欲や力に応じ、出来る限り自分で行なえるような関わり方を意識しています。本人の主体性を尊重しながらお互い良い関係が保てるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響はあるものの可能な限り、要望に応じ適宜面会や外泊等の機会が確保できるよう努めています。また、面会等が出来ない場合でもご家族と電話でのやり取りが出来るよう配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナが流行する前は、入居前から通っていた、お店や美容院、病院等の馴染みの関係性を尊重し、入居してからも通えるよう支援しておりました。また、友人等に電話連絡が出来るような環境作りもしておりました。	これまで馴染みとしてきた生活の継続に向け利用開始後も可能な範囲で支援を行っているが、現在は感染対策に係り難しい状況である。大切な家族との関係が途切れることのないよう、その都度面会態勢等の範囲の中で接する機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流が図れるよう日中の活動やコミュニケーションを通じ関係性の構築に努めています。他者との間に職員が介入する事により利用者が孤立しないように配慮しています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、困り事や相談事などがあれば、いつでも来所してもらうように声を掛けています。ご本人やご家族を出来るだけ支援していけるように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活担当制をとっているため、それぞれの担当する利用者の意向や要望の把握に努めています。また、困難な場合はしぐさや表情、態度などから推測したりしています。	利用者の生活担当職員が本人の意向や希望の把握を行い、カンファレンスで確認し、アセスメントや計画等に反映している。利用者の望む生活像を知る手がかりとして習慣・趣味・嗜好等シートを整備し活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には主にご本人やご家族から可能な限り今までの生活の様子や疾患や習慣などについてお話を聞き支援の中に取り入れるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状況を日頃から把握し、利用者の変化に気づけるよう記録や申し送り等で情報を共有するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって望ましい支援を行なう為に日頃から職員同士、本人や家族とのコミュニケーションを行い、その中から支援に必要な事柄を計画に反映させ作成しています。	カンファレンスを毎月実施し、課題分析がなされている。解決すべきニーズや本人の可能な事を導き出し、安定や自立の強化、促進される状況を勘案した実現可能な生活の目標を定めている。改定ケアサービス計画書を用い策定がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症ケア記録、KCIS、AMEDというシステムを使い記録やデータの蓄積をしています。それを基に、職員間での情報共有や介護実践に反映させています。介護計画の見直し等にも生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は新型コロナの影響もあり、そのような機会がない為、取り組みはありませんが、今後そのようなニーズがあった際に対応したいと考えております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ以前は、保健所に依頼し、ノロウイルス、食中毒の勉強会を利用者様と職員で共に学びました。また、町内会の集会等に参加していました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望があれば、入居前からのかかっていた病院へ受診等が出来るよう支援しています。	利用開始前からの馴染みのかかりつけ医に10名ほどが受診している。協力医療機関による往診は毎日1名ずつ2週に1度の頻度であるため医師の訪問回数も多く、都度の相談・受診が可能である。家族受診の際は事前事後の情報共有に努めている。	

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態を常に観察し、変化や異常があれば、看護師、管理者、施設長に報告、主治医に上申し、適切な医療が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、心身の状態の報告はもちろん、日常生活の様子についての情報を提供しています。また、入院中の様子などについて電話で確認等もしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に対し、重度化した場合の対応について説明し理解と同意を得るようにしています。重度化した際や終末期ケアについては、ご本人ご家族の意向をしっかりと確認し職員、主治医等を含めて全員で共有しています。	利用開始時に重度化した場合の対応についての指針を説明し同意を得ている。医師の判断に基づき家族と話し合いを行い、意向確認と今後の方針を取り決めている。家族の希望を受け今年度も看取り支援に尽力した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、研修会等で緊急時に迅速に行動がとれるよう取り組んでいます。また、事故発生時には速やかに管理者や看護師へ報告できる連絡体制も整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上日中、夜間帯を想定した避難訓練を実施しています。災害時等に速やかに避難できるよう取り組んでいます。新型コロナ以前は、地域の方にも訓練の参加を促し、協力体制の構築に努めました。	昨年6月に日中、今年1月に夜間想定火災避難訓練を実施している。地震時の初動等の行動は災害研修で確認している。災害備蓄品を確保し、地元病院とも災害協定を結び対策を強化している。BCPの策定に取り組んでいる。	地図を見ながら収容避難場所への経路を実際に徒歩で確認をしている。今後は避難先での生活課題を想定し、対策を検討するなどの取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴や、性格、認知症の状態に合わせて柔軟に対応できる様にしています。特に言葉遣いには気を付けています。	個人情報クラウド管理を構築し、個人情報保護法改定に伴い研修を実施している。言葉遣いは「何々しませんか？」の問いかけを共通認識に据え利用者の尊厳に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身の思いや、希望を伝えやすい雰囲気を作り、日常生活のあらゆる場面で、選択・決定ができる機会を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりにとっての生活リズムや過ごし方を尊重し、可能な限り、利用者のご希望に沿える様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に着替える洋服を選んだり、衣服の乱れを直す介助を行なっています。整容に関して整髪、洗顔等その方の生活リズムを考慮し関わるようにしています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの食材を使用し、四季を感じて頂いたり、利用者様の状態や、好みに合わせて食べやすい物を提供し、食事を楽しめる様なコミュニケーションを図っています。また、準備や片付けが可能な利用者には行って頂いています。	昨年10月より副食を調理済み食材配達に変更し、メニュー豊富で柔らかく美味しいと利用者から好評である。主食と汁物及び日曜朝食はパン食に見合う献立を職員手作りで提供し、行事食も地元特産の刺身盛り合わせやちらし寿司、土鍋料理など変化をつけて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの疾患や栄養状態を把握し、食量や水分摂取量の記録を取り、観察を行っています。また、嚥下機能の低下等の状況に応じて、刻み方やトロミ剤を使用する等、形状、形態の検討も都度行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なうよう努めています。口腔内の異常や義歯調整等の不具合があった場合は、早期に医療機関へ連絡をして、受診や往診が出来るよう対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎に排泄の記録をとり排泄リズムを把握したうえで、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう声掛け、誘導を行なう取り組みを継続しています。	利用者の排泄に係る習慣やパターンを把握し、個々の状態に応じた支援と共に排便状況を医師に伝え指示や判断に基づき対応している。立位が可能な場合は2名介助や夜間帯も眠りの状況を見極め可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄の確認を行い、日常生活動作(運動)や、水分摂取と乳製品の活用等により、自然排便が出来るように支援しています。必要により主治医に相談し下剤の処方を受ける事もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個別で対応しています。入浴を好まない方については、声を掛けるタイミングの工夫、時間をずらす等の対応をしながら行っています。また、入浴中はコミュニケーションをとるようにしています。	週に2回の入浴を基本とし、入浴を見送りたい場合は日にちをずらして対応している。やむなく通常より日にちが開く場合や排泄状態に応じて下半身浴や清拭を行い清潔保持に努めている。入浴中は安心して寛げるよう利用者の歌や昔話に寄り添っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にゆっくり休んで頂けるよう、日中は可能な限り活動して頂いていますが、利用者の状態や体調に配慮しながら適時、休息をとってもらうよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤情報は個別に管理しています。副作用等の症状があった際には、主治医に報告を行っています。服薬時には誤薬防止の為、声だすと、職員2名の確認等で、安全に服用出来るよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やレクリエーションを立案し楽しんで頂けるよう取り組んでいます。生活歴や身体機能を考慮し日常の中で何か出来そうなことがあれば本人に提案していく取り組みも継続しています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ以降外出の機会が極端に減少してしまいました。今後の状況にもよりますが可能な範囲で支援を検討していきます。	ドライブ外出をメインとした支援に取り組み、余市の公園へ行き散策をしたり、朝里ダム、天狗山、塩谷海岸、祝津で景色を一望するなど、可能な範囲を模索して出かけている。花植えや前庭で花火大会を開くなど、利用者の気分転換や戸外で過ごす機会を確保している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、利用者の意向を踏まえた対応を行なっています。金銭の所持を希望される方には、ご家族と相談のうえ、金銭の所持をしていただいている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族等から要望があった際には、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を行なう事で雰囲気を楽しんでいただいています。また、快適に過ごしていただけるよう共有スペースのテレビの音量、明るさ、温度、湿度などの調整にも配慮しています。個室についても同様の配慮行なっています。	玄関や開放感ある共用空間は温かみのある佇まいである。採光性のある大きな窓は季節感を感じることができる。誕生日の祝賀メッセージの掲示物も認識できる大きさであり、当日が分かる日めくりもある。場面によりリラックスできるBGMや時報も知らせる地元FMラジオを流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、危険な事や他者とのトラブルが無い限り、利用者が自らの意思で過ごしたい所で過ごせるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は、ご本人の長年使い慣れた馴染みのある物を出るだけ使用してもらっています。落ち着いた雰囲気の空間になるように工夫しています。	入り口に表札や写真等を掲示し見当識に配慮している。照明、カーテン、ナースコール等を備えている。馴染みの品々の持ち込みや家族等の写真を飾り、リロケーションダメージを防いでいる。安全な動線確保のレイアウトに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは、物が乱雑にならないように整理整頓を心掛けています。居室には個々の表札を付け、居室の場所を認識しやすいよう工夫しています。安全、安楽に生活できるよう配慮しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘 (2F あさがおユニット)		
所在地	小樽市住吉町5番22号		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0172000655-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりの丘は、小樽総鎮守の住吉神社の側にあり、近所には小樽運河やオルゴール堂など小樽を代表する観光名所があり、大変賑やかな地域にあります。また、市立病院や協会病院といった総合病院が徒歩圏内にある為、安心して生活が出来る環境になっています。一人ひとりの意思や尊厳を大切に、家庭的で楽しく、安らぎのある生活が送れるよう、利用者様と職員が共に支え合っています。利用者様、そのご家族の方がいつも安心して生活が送れるよう、職員一同サービスの向上に努めています。また、津波や土砂災害の想定エリアではなく、安全な立地になっており、地震や火災等の災害発生時の避難所が徒歩数分の場所にあります。2021年3月頃から、数名の外国人特定技能実習生の受け入れを行い、地域の介護人材不足解消のため取り組んでおります。20歳～70歳の幅広い職員が働いておりとても活気あふれる事業所になっております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に職員5原則を掲示し、全職員が常に確認出来るようにしています。 また、カンファレンス等において再確認をし共通認識の下、実践できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響もあり、地域との交流が殆んど出来ていない状況ではありますが、地域の方とお会いした時には挨拶を交わしたり、ちょっとした会話をしたり関係性の維持向上に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行なわれる行事に参加したり、ボランティアの方に事業所に来てもらい交流を行うところですが、新型コロナの感染及び拡大等の影響もあり、ほとんど交流できていない状況です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来であれば年6回(2カ月に1回)運営推進会議を実施しなければなりません、新型コロナの影響も有り殆んど開催出来ていません。その代替として、書面開催の形をとっています。これによりご家族や行政職員の方、地域の方の意見や助言を参考にサービスの質の向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り合い、事業所の実情を都度報告、相談すると共に、担当者から助言があればそれを参考にしサービスの内容に反映出来るよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を中心に、身体拘束に関する研修会を年2回定期的に開催しています。日常会話の中でも、身体拘束に該当するような事柄が無いよう職員間で再確認したり共通の認識を持つようにしています。(身体拘束と虐待の研修は同時開催が多いです)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を中心に、虐待に関する研修会を年2回定期的に開催しています。日常会話の中でも、虐待に該当するような事柄が無いよう職員間で再確認したり共通の認識を持つようにしています。 (虐待と身体拘束の研修は同時開催が多いです)		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、必要な時には職員研修で学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族に対し、契約書や重要事項説明書の内容に沿って説明し同意を得ています。その他、同意が必要な事柄に関しては書面にて説明をし同意を得ています。不明な点等は理解や納得が得られるような説明の仕方を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは生活の中で都度、意見をお聞きしております。ご家族に対しては面会時や電話連絡で意見を伺っております。意見のあった内容については早急に対応出来る体制を取り、対応しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談の機会を設け意見の聞き取り等行っています。また、月一回の職員会議でも意見の聞き取り等行っています。職員が意見の言い易い環境作りも心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6か月に一回以上は個別の面談を行っています。また、毎月1回職場の環境について不満が無い、やりがいを持っているか等の意見聴取も行き、出てくる内容については可能な範囲において改善すよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内及び事業所外の研修会に参加するよう促し、職員個々の知識や技術の向上が図れるよう勤めている。また、個別に指導を行なう機会も設けるように取組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は、市内GH協会の親睦会等に参加し親睦を深めていましたが、現在は行なえていない状況です。また、姉妹法人と合同の行事や研修等を通して交流の機会を作っていく取組みの再開も検討中です。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始当初においては、緊張等があるので関わりを多く持ち、表情や言動から不安や困り事がないかどうかを早期に気が付けるように心掛け、良好な関係が築いていけるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に、管理者や計画作成担当者が面談等を通して生活に関する要望を聞き、それに沿った支援を行っております。また、生活担当制を用いており、担当者からもご家族に対して要望の聞き取り等を行い、早期に信頼関係が築いていけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等を聞き、早急に改善が必要なところから対応するよう努めております。また、日々の観察の中で見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意欲や力に応じ、出来る限り自分で行なえるような関わり方を意識しています。本人の主体性を尊重しながらお互い良い関係が保てるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響はあるものの可能な限り、要望に応じ適宜面会や外泊等の機会が確保できるよう努めています。また、面会等が出来ない場合でもご家族と電話でのやり取りが出来るよう配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナが流行する前は、入居前から通っていた、お店や美容院、病院等の馴染みの関係性を尊重し、入居してからも通えるよう支援してありました。また、友人等に電話連絡が出来るような環境作りもしてありました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流が図れるよう日中の活動やコミュニケーションを通じ関係性の構築に努めています。他者との間に職員が介入する事により利用者が孤立しないように配慮しています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、困り事や相談事などがあれば、いつでも来所してもらうように声を掛けています。ご本人やご家族を出来るだけ支援していけるように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活担当制をとっているため、それぞれの担当する利用者の意向や要望の把握に努めています。また、困難な場合はしぐさや表情、態度などから推測したりしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には主にご本人やご家族から可能な限り今までの生活の様子や疾患や習慣などについてお話を聴き支援の中に取り入れるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状況を日頃から把握し、利用者の変化に気づけるよう記録や申し送り等で情報を共有するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって望ましい支援を行なう為に日頃から職員同士、本人や家族とのコミュニケーションを行い、その中から支援に必要な事柄を計画に反映させ作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症ケア記録、KCIS、AMEDというシステムを使い記録やデータの蓄積をしています。それを基に、職員間での情報共有や介護実践に反映させています。介護計画の見直し等にも生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は新型コロナの影響もあり、そのような機会がない為、取り組みはありませんが、今後そのようなニーズがあった際に対応したいと考えております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ以前は、保健所に依頼し、ノロウィルス、食中毒の勉強会を利用者様と職員で共に学んでいました。また、町内会の集会等に参加していました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望があれば、入居前からのかかっていた病院へ受診等が出来るよう支援しています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態を常に観察し、変化や異常があれば、看護師、管理者、施設長に報告、主治医に上申し、適切な医療が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、心身の状態の報告はもちろん、日常生活の様子についての情報を提供しています。また、入院中の様子などについて電話で確認等もしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に対し、重度化した場合の対応について説明し理解と同意を得るようにしています。重度化した際や終末期ケアについては、ご本人ご家族の意向をしっかりと確認し職員、主治医等を含めて全員で共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、研修会等で緊急時に迅速に行動がとれるよう取り組んでいます。また、事故発生時には速やかに管理者や看護師へ報告できる連絡体制も整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上日中、夜間帯を想定した避難訓練を実施しています。災害時等に速やかに避難できるよう取り組んでいます。新型コロナ以前は、地域の方にも訓練の参加を促し、協力体制の構築に努めました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴や、性格、認知症の状態に合わせて柔軟に対応できる様にはしています。特に言葉遣いには気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身の思いや、希望を伝えやすい雰囲気を作り、日常生活のあらゆる場面で、選択・決定ができる機会を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりにとっての生活リズムや過ごし方を尊重し、可能な限り、利用者のご希望に沿える様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に着替える洋服を選んだり、衣服の乱れを直す介助を行なっています。整容に関して整髪、洗顔等その方の生活リズムを考慮し関わるようにしています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの食材を使用し、四季を感じて頂いたり、利用者様の状態や、好みに合わせて食べやすい物を提供し、食事を楽しめる様なコミュニケーションを図っています。また、準備や片付けが可能な利用者には行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの疾患や栄養状態を把握し、食事量や水分摂取量の記録を取り、観察を行っています。また、嚥下機能の低下等の状況に応じて、刻み方やトロミ剤を使用する等、形状、形態の検討も都度行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なうよう努めています。口腔内の異常や義歯調整等の不具合があった場合は、早期に医療機関へ連絡をして、受診や往診が出来るよう対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎に排泄の記録をとり排泄リズムを把握したうえで、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう声掛け、誘導を行なう取り組みを継続しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄の確認を行い、日常生活動作(運動)や、水分摂取と乳製品の活用等により、自然排便が出来るように支援しています。必要により主治医に相談し下剤の処方を受ける事もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個別で対応しています。入浴を好まない方については、声を掛けるタイミングの工夫、時間をずらす等の対応をしながら行っています。また、入浴中はコミュニケーションをとるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にゆっくり休んで頂けるよう、日中は可能な限り活動して頂いていますが、利用者の状態や体調に配慮しながら適時、休息をとってもらうよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤情報は個別に管理しています。副作用等の症状があった際には、主治医に報告を行っています。服薬時には誤薬防止の為、声だすと、職員2名の確認等で、安全に服用出来るよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やレクリエーションを立案し楽しんで頂けるよう取り組んでいます。生活歴や身体機能を考慮し日常の中で何か出来そうなことがあれば本人に提案していく取り組みも継続しています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ以降外出の機会が極端に減少してしまいました。今後の状況にもよりますが可能な範囲で支援を検討していきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、利用者の意向を踏まえた対応を行なっています。金銭の所持を希望される方には、ご家族と相談のうえ、金銭の所持をしていただいている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族等から要望があった際には、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を行なう事で雰囲気を楽しんでいただいています。また、快適に過ごしていただけるよう共有スペースのテレビの音量、明るさ、温度、湿度などの調整にも配慮しています。個室についても同様の配慮行なっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、危険な事や他者とのトラブルが無い限り、利用者が自らの意思で過ごしたい所で過ごせるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は、ご本人の長年使い慣れた馴染みのある物を出来るだけ使用してもらっています。落ち着いた雰囲気の空間になるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは、物が乱雑にならないように整理整頓を心掛けています。居室には個々の表札を付け、居室の場所を認識しやすいよう工夫しています。安全、安楽に生活できるよう配慮しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひまわりの丘

作成日：令和 5年 2月 9日

市町村受理日：令和 5年 2月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害発生時に避難所までの避難手順の確認や、経路の確認、避難物資等の確認を訓練を通して行っているが、実際に避難所へ避難してからの人員の体制、ベッドや寝具等の物資を確保する計画をたてていない状況である。	地域避難所へ避難した際、利用者へのケア継続やプライバシーの配慮、物資の確保などなど、優先順位やどのようなことが必要になるかを職員間で話し合い、避難所での生活課題を明確にするとともに、課題について対応できるようマニュアルに追記することを目標とする。	・職員間で話し合い、避難先での想定される課題を明確にする。 ・小樽市災害対策本部に連絡し、避難所の物資確認を行う。	1ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。